



朝日レガッタ

嗚呼

無念の5位

シェル
エイト

第39回朝日レガッタは、5月3、4、5日の3日間、琵琶湖漕艇場で行われ、我が同志社エイトクルーは、漕手一名が大会直前から発熱（後に急性肝炎を発症）しながらも出漕し、決勝に進出。しかし決勝では東レ、京大等に及ばず、無念の5位に終わった。Jr.クルーはシェルフォアに出漕したものの、決勝目前で涙をのんだ。またシングルスカルに出漕した3名も、経験不足のためか準々決勝に進出するのが精一杯であった。

朝日レガッタ

シェルエイト レース回想

〔決勝〕

エイトの決勝は3日目の最終143レース、1レーンから東レ滋賀、京大、同志社、鹿児島大、東北大、関西大の6クルーが40クルーの中から勝ち上がってきた。晴れてはいたものの、横風に伴う風浪が絶えないコンディション。前年優勝の東レ滋賀を初め、各クルーとも気迫のこもったウォーミングアップを行いスタート地点についた。

12時20分。決勝レースのスタートは切られた。先ず2レーンの京大が絶妙のスタートを見せ飛び出した。他のクルーも続いたが、同志社クルーは、わずかに出遅れてしまった。先行する京大を1レーンの東レが捕え、引き離しにかかる。同志社もスパートからコンスタントピッチに移行、追撃体制をとったが、前日までの鋭さが見られない。さらには前日より2枚も高いピッチで追う苦しい展開。500mを過ぎてもリズムが今一步の同志社は、4、5番手で追っていた。800mを過ぎてラストスパートに入り、4レーンの鹿児島大を捕えにかかったものの、半艇及ばず、結局3分8秒で5位と敗れた。クルーの体調の悪さを気力でカバーしようと臨んだものの、精神的な詰めの甘さを痛感し、多くの反省と課題を残したレースであった。



〔予選〕

今大会のエイトの予選第1レースでトップを飾ったのは、同志社クルーであった。降雨、体調不良で調整もままならなかったものの、同志社クルーは、相手と見られていた陵水艇友会等を、スタートで突き放すと、その後はピッチ35の軽快な漕ぎを続け、3分0秒3の予選2位の好タイムで準々決勝へ進出した。

〔準々決勝〕

明けて2日目の第88レース。エイトの準々決勝。昨年もここで対戦した京大、阪大との雪辱戦でもあった。同志社は、スタートで出遅れた不利をもとせず、先行する阪大を500mでかわし、850mからゴールまでは京大とのマッチレースとなった。ほぼ同時のゴールも、キャンパス差で同志社、ここも2位の好タイムで勝ち上がった。

〔準決勝〕

同じく2日目第114レースが準決勝。相手は、東北、京大、阪大の国立勢。東から単騎参戦の東北は、完全にフライングととれる強引なスタートにものを言わせて最後まで逃げ切った。2位争いは準々決勝と同様、同志社対京大、半艇身同志社リードで迎えた900m。同志社は遊覧船の波をかぶって急ブレーキ！たて直して3位で決勝へ進んだのであった。

朝日レガッタ詳細 シェルフ

予選においては、広島大に1位をゆずったものの、まずまずのタイム(3分30秒0)で2位で通過した。これはいける、とクルーの雰囲気は明るかった。さて、準々決勝。また広島大とあたることになった。クルーは燃えた。「予選の雪辱を果たしてやる!」。広島大を破り、波にのるつもりであったが、いまひとつ調子が出ず、ホンダにも2位にくい込まれ、結果は3位であった。

しかし、とにかく準決勝にはすすんだ。大会2日目のこの日2回目のレース。どのクルーも疲れが見えてもおかしくない、何がおこるか分からない。相手は皆強豪だが、この勝負に賭けよう、なんとか決勝に出よう、と全員が気合十分、捨て身で準決勝にのぞんだのである。

試合は、優勝候補No.1のトヨタがスタートからとび出し、その後も他を引き離してぐいぐい伸び、残った大丸、京大、ホンダ、同志社、岡大(医)の2位争いとなった。2位までが決勝に出場できる。500mまではまったくダンゴの状態、しかし、700mあたりから、京大、ホンダが伸びてきた。必死に食いさがる同志社。しかし、800mあたりから同志社に疲れが見えた。900m付近では水をあけられてしまう。大丸との4位争いにはなんとか勝ったものの、準決勝止まりの結果に終わったのである。



シングルスカル三人衆 レース後語る

関谷 晴彦
自分の漕力を試すよい機会と思い積極的に練習しました。特に春季休暇中は、ウエイトや乗艇など毎日欠かさず自主トレしました。結果は準々決勝で敗退しましたが、丸二ヶ月間、最後まで頑張り通せて自信がつかしました。

石田 政隆
小雨の降る中、同志社チアーに送られ漕艇場に向った。シングルスカルでは初試合である。500m付近から激しい3位争い。思わず隣りの選手に向い、「ウォー!」「こんちくしょう!!」と、大声で怒鳴っていた。ボートレースは一種ケンカに通ずる所があるように思えた。

井上 周一
大会前腰を痛め、十分な漕ぎ込みもできずに大会に突入してしまった。それでも一発にかけようと、意気込んだためか空回り。オールを潜らしたり、ブイにぶつかったり。しかし、自分一人で1000mを漕ぎ通せたことは、とてもいい経験になりました。

大会結果 第39回朝日レガッタ 5月3日~5日

エイト	同志社(屋久, 森川, 原, 後藤, 高橋, 星沢, 大沼, 城生, 佐藤) 決勝5位
シェルフォア	同志社(末瀬, 阿江, 斉藤, 平松, 藤田) 準決勝 敗退
シングルスカル	関谷晴彦, 準々決勝 敗退 石田政隆, 井上周一 予選敗退

HOW TO 新人勧誘

ここ1・2年我が部は、一般新人勧誘に於いて失敗をくりかえし、その結果三回生の一般部員2名、二回生は、わずかに四名という惨々たるものであった。そこで今年、一念発起し、新人勧誘プロジェクトチームというものがあるが、そのメンバーを中心に、他の部員との一条乱れぬ協力の下、勧誘作戦が展開された。中でも画期的であったのが、田辺校地へのエイト搬入と、新人勧誘用ビデオ製作、並びにビデオの効果的な使用法であった。

エイトについては、一定時間ごとにかついでねり歩いた様は壮観であり、効を奏したこと絶大であった。

またビデオについては企画大好き人間こと佐藤亘主演によるPR用ビデオが大当たりで、ビデオの前には常に一回生が集まっている状態であった。

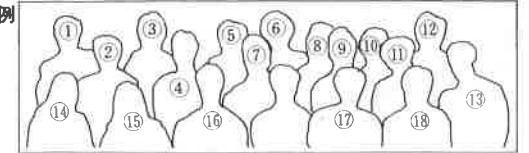
しかし一方、新一回生一人一人に声をかけ勧誘の説得をしたり、登録相談に応じるなどの地道な努力が勧誘作戦成功に多大の貢献をしたことは銘記しておかなければならない。

かくして、エイト、ビデオ、説得の三位一体による作戦は、大成功のうちに終り、なんと一般新人11人、セレクション4人の計15人という近年まれにみる成果を修めたのである。以下二年次から入部した西田君、そしてセレクションを含めた一回生部員、及び今年ひさびさに復活した女子マネ2名に入部にさいしての抱負を語ってもらうことにしよう。

新入部員紹介



凡例



名前

- | | | | |
|---------|----------|----------|----------|
| 1 坂本 竜一 | 6 米原 栄一 | 11 椎名 徹 | 16 元坂 道郎 |
| 2 石橋 雅信 | 8 西田 智明 | 12 境 亮次 | 17 佐伯 誠 |
| 3 若山 清和 | 7 西田 利彦 | 13 内藤 正樹 | 18 前田 崇 |
| 4 島田 恭典 | 9 配川 隆司 | 14 桜井 昭子 | |
| 5 久世陽一郎 | 10 朝倉 伸二 | 15 川崎 優子 | |

- 西田 智明 商学部 岩国高校
2 回生から入部しました。声の低さが魅力ですが、みんなは汚い声と言って僕をののしります。
- 朝倉 伸二 経済学部 京都府立城陽高校
英国志向がたたり、ひょっこり入部。高校ラグビー界の星 ボートでどこまで通用するか……? 乞うご期待!!
- 石橋 雅信 法学部政治学科 金蘭千里高校
ボートに賭ける私の青春! Rowing Machineめざして体を鍛えます。日本一になりたい……
- 久世陽一郎 経済学部 岐阜高校
アメリカンフットボール部を蹴ってボート部に入部しましたのでボートは蹴らずに、漕ぎたいと思います。
- 元坂 道郎 経済学部 大阪府立長野高校
すべて僕におまかせ下さい。時速250キロで漕ぎまくって必ずや新幹線に勝ってみせます!!
- 佐伯 誠 法学部法律学科 豊田南高校
どんなことがあろうと自分を見失なわぬ男。部と勉強を両立し、ついでに司法試験に受かるぞ~
- 境 亮次 商学部 創価高校
なにもわからぬ者ですが、まあがんばります。
- RYUICHI SAKAMOTO 商学部 膳所高校
ROWING EXPLOSION!!
Don't touch me. OSENSALERUYO
- 椎名 徹 工学部機械工学第2学科 七尾高校
まずは対抗のシートを取り朝日で勝ち、関西選手権をぶっちぎり、インカレで中央に水をあげ、全日で東レを破り、オリンピックで予選を突破する!! やったるでー!
- 島田 恭典 経済学部 洲本高校
春が来て除々にやせた僕は、これでも自分なりにがんばってはいるんです。
- 内藤 正樹 文学部文化史学専攻 美方高校
勉強、ボートそれ以外私には考える余裕などございません。
- 西田 利彦 法学部法律学科 甲西高校
風薫る 瀬田の庵に集いくる若鮎達は志みな同じくし川上を目指して競わん
- 配川 隆司 法学部法律学科 春日兵高校
こんにちわ、2年間の浪人生活ののち、ようやく同志社合格を果たした配川です。「ボートは人生経験で漕ぐ」をもっとーに頑張ります。
- 前田 崇 法学部法律学科 智辯学園高校
今はまだ生まれたばかりのオアズマンですが、将来立派に成長する事を御期待下さい!!
- 米原 栄一 法学部法律学科 府立交野高校
酒、女、バイト、車、桃色の大学生活……。ああ私の夢が グスン!! 瀬田の藻くずに……。
- 若山 清和 文学部社会福祉学専攻 小松高校
勉強とスポーツとを両立させて充実した大学生活をおくりたい。
- 桜井 昭子 文学部国文学専攻 桐蔭高校
高校時代もバスケット部のマネージャーをさせてもらってました。いたらない所が多いと思いますが、一生懸命頑張ります。ソウルオリンピックに是非つれていって下さい。
- 川崎 優子 文学部文化史学専攻 同志社国際
中学・高校とソフトボールをしまっていました。マネージャーという仕事は初めてなのでどんな何でも言って下さい。野球は阪神ファンです。

朝日レガッタまでの航跡^{みち}

昭和61年もすでに6月に入り、ボートもシーズン真っ最中です。このボートシーズンの開幕戦とも言える大会が、先月行われた朝日レガッタです。我々は、その朝日レガッタを一番最初の目標として頑張ってきました。ここでは、1月から朝日レガッタまでの我々ボート部の活動報告をすることにします。

1月。今年のボート部の活動は毎年恒例の初漕ぎ会（2日）から始まり、今年も多数のOBの方々に参加いただき、漕艇場ゴールから新幹線鉄橋までの約1.4kmのコースでとりおこなわれました。

現役部員の活動は、7日の御所トレから始まりました。1月中旬から2月上旬のこの時期は、学年末試験の時期であり、部員一同、試験勉強をしながら、御所でのランニング、ウェイトトレーニング等に励みました。

2月。1月に引き続き、御所トレで体をきたえました。11日、例年通り、多数のOBの方々の御参加のもと、艇友会総会、卒業生送別会が行われました。その3日後の14日から22日まで、基礎体力の充実をはかるため、岡山県玉野市、玉野青少年スポーツセンターへ遠征合宿を行いました。（詳細は左記）そして、遠征合宿後25日より、瀬田での合宿生活に入りました。

3月。瀬田での合宿生活。毎日、早朝、午前、午後の3度の練習、休みは週1日だけと部員一同、ボートOnlyの生活を送りました。

4月。学校が始まり、練習は、1日3度から2度になりましたが、朝日レガッタがだんだん近くなり、一段と練習に熱が入ってきました。また、練習だけでなく、新人勧誘にも力を入れました。ここ数年の部員不足を解消すべく、田辺新キャンパスで積極的に勧誘を行い、その結果、多数の入部者を得ました。そして、5月。朝日レガッタを迎えました。以上、朝日レガッタまでのボート部の活動の概略です。部員一同、朝日レガッタまでの間、一生懸命練習に励んできました。朝日レガッタが終わった今、気持ちを一新し、最終目標である全日本選手権めざして、ボート部員一同、一丸となって頑張っています。

御結婚おめでとうございます

林 圭介 氏 S57年卒

今後の試合日程

○対立命館大学定期戦	6/29	瀬田川
○第二回関関同立戦	7月中旬	琵琶湖
○関西選手権大会	7/26. 27	同上
○全日本大学選手権大会	8/21~24	戸田
全日本選手権大会	同上	同上
オックスフォード盾レガッタ	同上	同上

地獄の玉野

岡山から電車で三十分、四方を山に囲まれ、パチンコ屋、飲み屋はおろか人家すらないさしずめ岡山のアウシュビッツ。人はそれを玉野青少年スポーツセンターと呼ぶ。

我々ボート部はさる二月十四日から二十二日までの九日間、この強制収容所で合宿をおこないました。朝の五時五十分の起床から夜十時の消燈までの間に三セッション。練習内容としては、クロスカントリー、ウェイトトレーニング、陸上競技場を使用しての中、長距離走など筋力、持久力の強化を狙ったものをおこないました。しかし如何せん天は我ボート部に味方してくれはしませんでした。今年の玉野は例年に比べ気温が異常に低く、特に陸トレにおいては補助的存在のCOXにとって早朝練習は地獄でありました。その上十八日には二十九年ぶりの大雪に遭遇するなど、コンディションは最悪で計画どおりの練習が出来なかったこともあり。これでは何のために高い金を払って岡山まで来たのかかわからない。そう考えたらやる気もなくなるものですが、そこは毎日異常な合宿生活をしているボート部員、そんなことには全く動じず、しかし帰る日を指折り数えてガンバリました。二十一日には倉敷に住んでおられるOBの楠田さんが合宿地へこられ現役部員を叱咤激励されました。

この合宿は期間的には例年に比べて短いものでしたが、内容的には密度の濃い、例年に勝るとも劣らないものであったと確信しています。我々現役部員は、この苦しく、楽しいことなどほとんどなかった、出来れば忘れてしまいたい玉野合宿を無理にでも忘れないで今後のささえとしていきたいと思っています。

編集後記

はっきり言って私はつかれた。ボートの練習はあるし、授業はあるし、その上この部報編集。頭が爆発しそうだが。しかしやれば出来るものだ、なんとか仕上げる事が出来た。でもその出来ばえは…?

部報力漕

1986年6月1日発行

発行 同志社大学ボート部
大津市瀬田3-2-30

<編集委員>

奥谷勇人	大沼弘幸
屋久浩典	阿江克彦
平松靖之	斉藤繁明
西田智明	末瀬雅巳
内藤正樹	